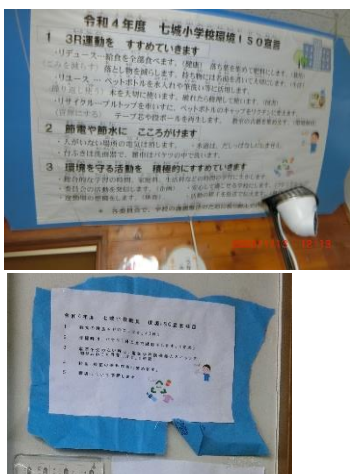






令和4年度（2022年度）学校版環境ISOへの取組

＜ 学校名：菊池市立七城小学校 ＞

1 取組の概要報告

(1) 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言		<p>今年、環境への意識を高めるために各委員会で環境に関する宣言項目を考え、取り組むこととした。7月の児童集会では、動画にて『令和4年度七城小学校環境ISO宣言』を発表し、各教室に掲示をした。また、職員にも事前にアンケート調査を行い、本校の実態に合う教職員の環境ISO宣言項目を決め、給湯室や印刷室などの利用頻度の高い場所に掲示し、啓発を図った。さらに、節電節水と呼びかけるキャラクターを電気スイッチや水道付近に貼って、啓発を行った。</p>
行動	 (a)  (b)  (c)  (d)	<p>【児童の取組】</p> <p>① 授業の中で</p> <p>5年生の総合的な学習の時間「水俣学習を通して、七城町の環境を考える」の学習では、水俣へ環境学習に行った。館内の見学や環境ゲーム、講話を通して公害の原因や影響から水環境の大切さを学んだ。(a)</p> <p>同時に、田植えや稲の管理、草取り、稲刈りなどの米づくり体験をすることで、地域の誇りである七城の米を支える水の大切さに気付くことができた。精米した米を袋詰めして、秋の授業参観日には保護者に販売する経験まで行った。(b)</p> <p>特別支援学級では、生活単元学習の時間の「野菜を育てよう」の学習で、育てたさつまいもを収穫した後のつるを再利用し、「クリスマスリース」を制作した。丁寧につるを編み込んで、思い思いに装飾をほどこし、カラフルなリースに仕上げた。放課後に利用している療育施設にプレゼントした。(c)</p> <p>また、「バケツ稲作り」にも挑戦した。種まきから体験し、土づくりや水やりの大切さを学んだ。その後、手作業で脱穀して収穫をし、軟式野球ボールを用いて籾摺りまで時間をかけて行った。最後に玄米を炊いて、セルフおにぎりとして食べたが、自分で育てた米は、これまでにない喜びを感じて味わっていた。(d)</p> <p>② 委員会活動</p>

行動



(e)



(f)



(g)



(h)



(i)



(j)



(k)

今年から、SDGsを意識した活動にも取り組んでいる。3 7 11 12 13 15

健康委員会では、定期的に「ななしろ元気メニュー（食べるとみんなが元気になるメニュー）」を児童が発案し給食として出したことで、健康を意識して残さず食べようという取組につながった。3 (e)

トイレットペーパーの芯をリサイクルして換気棒を作成し、コロナ対応として健康に留意することを呼びかけた。12 (f)

また、委員会の児童が海の豊かさを守ることを絵で描いて、癒しの美術館として保健室前の廊下壁面に掲示した。14 (g)

生活委員会では、落とし物を減らすために記名を促す呼びかけを行った。記名なしの落とし物については、目に付く職員室前の廊下棚に置いて、持ち主が気づくようにした。さらに、3か月に1回、全校に回覧した。12

栽培委員会では、週1回の玄関前ロータリーの草取り作業や花壇の水やりをした。全校では「花いっぱい学校」を目指し、一人一鉢運動で卒業式の花を育てたり、花壇等に花々を植えたりした。さらに、「ガーデニングカップ」を年2回実施し、学級園のデザインや手入れの状況を競い優秀なクラスを表彰した。7

環境委員会では、児童がエコ活動全般に関心を持つように活動キャラクター「エコレンジャー」を継続して活用し、児童の目に留まる場所に掲示して意識向上をねらった。(h)

資源ごみ(紙)のリサイクル(古紙回収)を本年も継続して取り組み、かごを各クラスに設置し、定期的に回収した。(i)

体育委員会では、運動場の小石拾いや草取りなど整備を細まめに行い、環境を守ることに努めた。15

企画委員会では、7月に「ユニセフ募金」を、1月に「書き損じ集め」を実施し、全校児童への活動意図の説明と呼びかけを行った。それぞれの収益金は、各関係機関に送った。11 (j)

フレンドシップ委員会では、「ありがとうの木」に取り組み、たくさんのありがとうの言葉を視覚化することができた。ハート形の用紙に温かいメッセージが綴られてできた木は、心温まるものとなっていた。

(k)



(1)



(m)



(n)



(o)



(p)



(q)



(r)

③ 全校活動

各棟に回収ボックスを設置し、プルトップを回収した。「車椅子を贈る」という目標を共有することで人や物を大切にする心を育むことに繋がった。

さらに、ペットボトルキャップは地域の協力によりたくさん回収することができ、ポリオワクチンにかえる活動を行った。(1)

今年は、高学年を中心にSDGsに関する出前講座を設け、児童の意識を高める学習を行った。県環境センターの体験学習ではUVストラップ作りを行い、講師の先生からのサポートを受け、楽しく学び製作することができた。**13** (m)

【職員の取組】

職員に配布するプリントは片面使用済みに印刷するか両面印刷を徹底した。職員会議の提案は、ペーパーレス化し、必要な部分のみ印刷をすることとした。

12

印刷室の棚には、用紙の分別をし、無駄にならない工夫を行った。使用済みの紙は可能な限り古紙回収している。(n)

④ P T A ・ その他

P T A 有志の方が運動場・広場・花壇等の除草をしてくださった。(o)

老連会女性部の方々と JA の方々と一緒に正門ロータリー花壇に季節の花々を植えた。(p)

学校運営協議会の方々には、池の整備、植木の剪定等を定期的に行っていただいた。**11**

運動会前の親子美化作業では、地区ごとに分かれて運動場の除草作業を行った。普段児童だけでは行き届かない場所も、保護者の協力のおかげできれいにすることができ、当日は快適な環境の中で運動会が開催できた。**15** (q)

年2回9月と2月に開催されるP T A リサイクル活動。第1日曜日に実施され、P T A と職員が協力して、地区で回収した廃品を分別した。

毎回、地域の方々からたくさんのご協力があり収益金を得ている。**7** **11** **12** (r)

<p>記録</p> <table border="1" data-bbox="145 237 636 465"> <tr> <th></th><th>電気代金 (万円)</th></tr> <tr> <td>R 3</td><td>3 2 0 . 9</td></tr> <tr> <td>R 4</td><td>3 5 5 . 4</td></tr> <tr> <td>増減</td><td>3 4 . 5 ↑</td></tr> </table>		電気代金 (万円)	R 3	3 2 0 . 9	R 4	3 5 5 . 4	増減	3 4 . 5 ↑	<p>電気代金（４～１２月）については、昨年度と比較すると３４．５万円増えている。教室の電気をこまめに消すなど、節電には児童、職員ともに気を付けていたが、コロナ感染症対策や熱中症対策のため冷暖房の使用量が増加していたことが理由として考えられる。しかし、節電の意識は高まっているので、引き続きできることから実践するよう啓発をしていく。</p>
	電気代金 (万円)								
R 3	3 2 0 . 9								
R 4	3 5 5 . 4								
増減	3 4 . 5 ↑								
<p>見直し</p>	<p>コロナ感染症対策で、牛乳パックのリサイクルやペットボトルのキャップ回収活動を休止している。そのため、他にコロナ禍でも可能な活動を考える必要がある。また、節電・節水に関しても、健康で安全な暮らしを確保し命を守るためには、水道光熱費はかかってしまう。来年度は、SDG s を生かした目標へと再検討が必要であると考えます。</p> <p>また、啓発や発信に関しては、PTAや地域を巻き込んで取り組むためにも、通信や学校のホームページなどを活用することも効果的だ考える。</p>								

（２）成果と課題（委員会での振り返り、職員アンケートより）

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・今年、前期の早い時期にSDG s の講話があり、環境問題への関心が高まったと思う。 ・集団宿泊訓練での体験学習や環境学習を通して、子どもたちの環境を大切にしようとする心が育ってきていると感じる。 ・午後から、暖房を切るように心掛けた。 ・水や電気など日頃から環境に配慮しなければならないことは、子どもたちも意識して行動できた。 ・家庭科では、環境に配慮し調理実習後に油の始末をして、片付けることができた。 ・今年から給食の牛乳パックやストロー、デザート容器等、分別がさらに細くなったおかげで、各教室で燃やすごみとビニールゴミに分ける作業も抵抗がなくなり、環境を守る意識が高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な取組ではなく、イベントごとの単発の取組で終わっている。 ・放送委員会として取り組む内容をうまく考えることが出来なかった。掃除や給食の放送でSDG s に関することを紹介することもできたと思う。 ・委員会活動だけでは、運動会前の整備は足りていないと感じた。 ・本を大切に扱うということがどのようにすることかを分かっていない児童がいるので、具体的に本の扱い方について指導していく必要がある。 ・各委員会の人数は限られているため、複数の委員会でタイアップした企画を考えて一緒に取り組んで活動を活性化させる必要がある。